



校長室だより

第 2 2 号

令和3年9月9日(木)

大崎市立沼部小学校

校長 吉田 浩之

名札をつけましょう

おとといの朝会の最後に、佐藤朋克先生が「右手を挙げましょう。その手を左の胸にもっていきましょう。そこに名札はついていませんか？名札をつけることは沼部小の約束です。名札をつけましょう。」とお話をしてくださり、朝会を締めました。

突然ですが、ここで問題です。というより、一緒に考えてみたいのです。

「名札をつける」の「つける」は「付ける」でしょうか？「着ける」でしょうか？

図書室にある「小学国語辞典」によると、

◎付ける：①物にふれさせて、はなれないようにする（例：服に墨を付ける）

②加える。そえる（例：付録を付ける）

③気持ちを向ける。注意する（例：気を付ける）

◎着ける：身にまとう。着る。

※「付ける」に関してはもっと意味が記載されていますが、ここでは3点のみ掲載しています。

名札は「付ける」と表記し、②の意味で使うことが一般的なようです。私は、小学生3年生のときに担任の先生から言われたことが、半世紀ほどたっても頭から離れません。「外に出るとき、服を着るでしょ。名札も服とおんなじ。名札を付けないことは裸で歩くことと同じだよ。」そのために私は、名札は「着ける」の方がしっくりくるなと思っています。このようなことを考えてみると、日本語って面白いなあと思います。

名札については、賛否両論あります。事件に巻き込まれないように、登下校中は名札を付けない。教室に入って校舎内のみで名札を付ける、という学校もあれば、名札は一切付けない、という学校もあります。

夏休みに入ってすぐに先生方で、1学期前半の本校の教育活動について振り返りを行いました。そこで、本校では、万が一事故に遭ったときにすぐに連絡が取れることがメリットであるのとらえ、登下校中も名札を付けさせましょう、と確認しました。さらに私は次のようにも考えました。「この沼部地域は、地域ぐるみで子供たちを育ててくれている地域だと認識している。地域の人々に、名札を付けることで「ぬまっこ」を知ってもらい、子供たちを見守ってもらうことも大事ではないか。」と。

毎朝、昇降口で子供たちと挨拶を交わしています。極力名前を呼んで子供たちに声を掛けるようにしていますが、恥ずかしい話、まだうろ覚えのお子さんもいます。（ごめんなさい。）そんな時、名札が付いていると、名前を呼んで声を掛け、顔と名前を一致させて、覚えようとしています。

計画委員会の子供たちも、昼の放送で名札をつけましょう、と呼び掛けてくれています。「名札を付けることで、何年何組か分かります。」ともアナウンスしています。これは最初に述べた、「付ける」の③の意味もあるような気もしました。

本校の約束事として、名札をしっかり付けさせたいと思います。保護者の皆さまも趣旨を御理解の上、御協力いただきますよう、お願いいたします。

（昇降口に各地区のハザードマップが出そろいました。御協力ありがとうございました。毎朝、子供たちはハザードマップを見てから、教室に向かっています。）